

秋芽生育期のチャ炭疽病等に対する作用の異なる殺菌剤の混用散布効果

秋芽生育期に予防剤と治療剤を混用して2～4葉期に1回散布することで炭疽病等の主要病害を効果的に防除可能

背景・目的

- ・秋芽生育期の病害防除は萌芽～1葉期の予防剤散布と3～4葉期の治療剤散布による体系防除を推進
- ・新芽生育期に降雨が長期間続くと散布時期の遅れや薬剤の効果不足により病害が多発
- ・降雨状況等に影響されることのない簡易で効果的な病害防除法の確立が必要

成果の内容

残効性の高い予防剤ダコニール1000と治療効果の高いEBI剤のインダーフロアブル、又はオンリーワンフロアブルを混用して2～4葉期に1回散布

秋芽生育期の炭疽病、新梢枯死症、網もち病に対し、慣行の体系防除と同等以上の効果

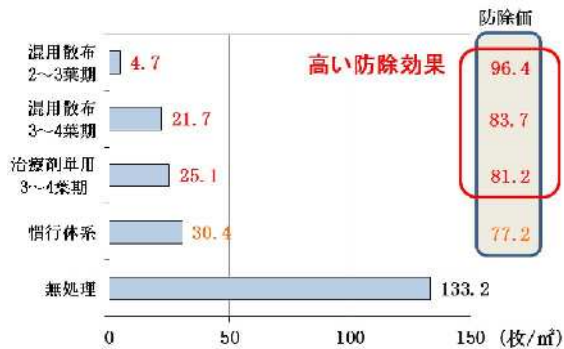


図1 炭疽病の発病葉数と防除価

期待される効果

- ・秋芽生育期における病害の防除回数の削減
- ・降雨日の多い時期でも1回の散布で簡易に安定した防除効果



図2 新梢枯死症の発病枝数と防除価

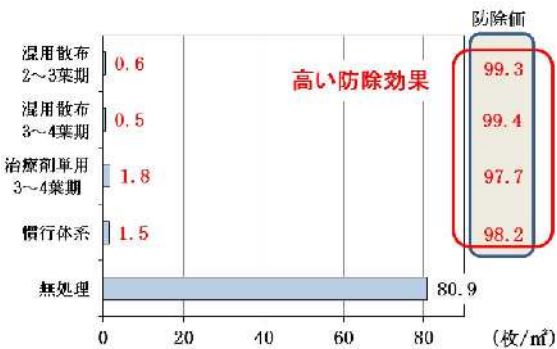


図3 網もち病の発病葉数と防除価

導入メリット

秋芽生育期における病害防除回数の削減

【慣行の体系防除】

一般圃場 2回(体系)
網もち病の常発圃場等 3回(体系)

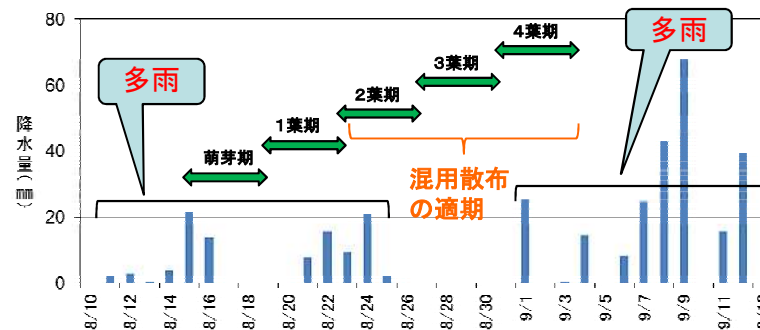
削減

【混用散布による防除】

1回(混用1)
2回(混用1+追加1)

降雨日の多い時期でも安定した防除効果

左記試験における期間中の降雨状況(2018年)



- ◎1回の散布で良いため、降雨日が多くても適期に散布可能
- ◎予防剤と治療剤の組合せで降雨日の多い状況下でも長期間の安定した防除効果が得られる。

普及対象・範囲
県内茶生産農家